

飛躍する台湾産業



消費者の「健康・安全ニーズ」受け イノベーションを進める台湾の食品産業(1)

地域ごとにクラスターを形成して開発・生産・販売体制の整備を進め、50～60年代の「輸出の牽引役」から内需中心へと位置付けを変化させながら成長を続けてきた台湾の食品産業。近年は国民所得の増加や社会の「健康・安全」志向化に合わせ、商品の高付価値化が進み、保健食品など消費者ニーズにマッチした商品の市場が拡大している。また、GMP(適正製造規範) 認証規範やトレーサビリティ制度が導入されるなど、業界全体のイノベーションも進んでいる。1回目の今回は、産業概況やクラスター分布状況について紹介する。

概況ー内販が9割、貿易は日米中心

本稿の「食品産業」は台湾の産業分類上の「食品飲料業」を指し、屠畜業や乳製品製造、製茶、ビール製造など21業種を含む(2008年の生産額上位10業種は表1の通り)。近年4,500億元前後で推移していた生産額は、08年には前年比10.46%増の5,264億元を記録した。08年上半年まで続いた国際原料価格の高騰により生産コストが向上したためであり、粉製品業(33.28%増) 飼料(24.62%増) 麵製品業(16.40%増)といった、トウモロコシや大豆などの原料を輸入に頼る簡易加工食品業者の生産額増が目立った。なお、国内販売と輸出の比率はほぼ9対1となっている。

08年の貿易状況は、輸入額は1,321億元(07年比14.03%増)、輸出額は638億元(同18.63%増)であった。輸出先の上位国には日本(冷凍食品、肉類など)、米国、タイ、輸入は米国、日本(タバコ、調味料など)、豪州などが並ぶ。輸出は、全体の約65%を占める冷凍食品(約419億元)や調味料(約29億元)、非アルコール飲料(約29億元)などが牽引。一方、輸入額が多かったのは、冷凍食品(約283億元)やアルコール飲料(約152億元)、乳製品(約99億元)などだった。

産業クラスター開発の北部、生産の南部

台湾の食品産業は、乳製品メーカーは北部(台北、桃園)、食用油脂メーカーは中部(彰化、雲林)、冷凍

表1：2008年の台湾食品産業の生産額上位10業種と前年からの成長率

業種別	生産高(千元)	成長率
動物飼料	80,049,033	24.6%
未分類食品	56,447,448	0.7%
屠畜	55,967,323	19.9%
非アルコール飲料	44,539,241	4.8%
粉製品	41,181,021	33.3%
精穀	38,593,521	11.4%
食用油脂	25,907,652	16.4%
ビール	24,150,515	- 4.6%
高温加熱食品	23,704,858	2.7%
調理食品	23,150,515	6.0%
計(上記+ その他分類業種)	526,392,725	10.6%

出所)食品工業発展研究所

冷蔵肉類メーカーは南部(屏東)といったように、地域ごとにクラスターが形成されている。クラスター形成のパターンには、原料供給地の近くで加工(南部の水産食品業など)や末端消費地の近くで加工(北部の高温加工食品、砂糖菓子製造など)、各地域の風土や伝統と結合(金門地区のアルコール飲料など)などがある。食品工業発展研究所は各地区の特徴を以下のようにまとめている。

(1) 北部：麵、肉製品、製茶、調味品製造業者など



が集積。従業員数は全国の38%と最大。研究開発費は全国の47%を占める。

(2) 中部：台中市を中心に食用油脂、粉製品製造業者などが集積。研究開発への投資も盛んで、各メーカーは市場ニーズへの対応力に優れているとされる。近年は中部科学園区の設立により市場が拡大した。

(3) 南部：台湾最大の食品メーカー集積地であり、生産額は全国の4割に当たる1,580億元(08年)。統一企業や愛之味、光泉などの大手企業が効率的な生産・管理システムを運用しており、就業者1人当たりの生産額は約400萬元と、高い生産性を誇る。

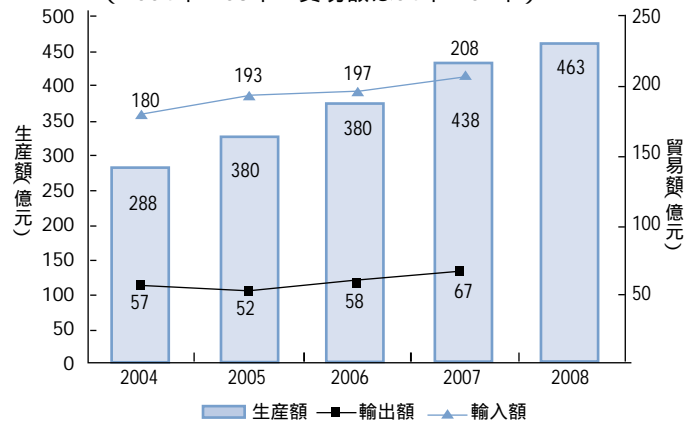
(4) 金門地区(金門及び馬祖)：地区の特色を活かした生産・販売体制により、成長率は全国平均よりも高い。金門酒廠と馬祖酒廠の両社がコウリャン酒を中心に高単価の産品を生産しており、就業者1人当たりの生産額は地区別のトップ。近年は、近接する中国市場の開拓が進められている。

消費者ニーズの変化ー成長続ける健康食品

台湾の食品市場は成熟しており、価格や味だけではなく、「健康」や「安全」が消費を促すキーワードになっている。09年には、肥満対策効果があるとされる茶花抽出物を多く含む黒松の「茶花緑茶」や雑穀を利用してカロリーを抑えた全家便利商店の「超健康パン」シリーズなどが消費者ニーズを捉えて売上を伸ばした。

台湾の08年の保健食品の生産額は463億元。04年からの4年間で約59%増加しており(図1)、同期間の食品産業全体の成長率(約13%)を大きく上回った。中華穀類食品工業技術研究所によると、「保健食品」には、健康を促進する科学的な根拠を有し中央官庁の認可を得た「健康食品」や生理機能を調整す

図1：台湾健康食品の生産額及び貿易額の推移
(2004年～08年 貿易額は04年～07年)



出所) 中華穀類食品工業技術研究所

る「機能性食品」、乳幼児や病人向けの「特殊栄養補助食品」などが含まれる。高度な研究開発が必要であり、有力な食品メーカーを中心に、バイオや薬品メーカーが数多く参入している。07年の生産額438億元の内訳は、ヨーグルトなどの乳酸菌醗酵産品が約72億元、健康酢などの発酵食品が約29億元、靈芝(レイシ)や冬虫夏草などの真菌類及び代謝物が約28億元、その他の保健食品(ビタミン剤、無糖ガム、スポーツドリンク、患者用特殊栄養食品など)が122億元などとなっている。健康食品は国内市場が拡大を続ける一方、輸入が輸出を大きく上回っており(図1)、原料の国内調達率向上や海外販売の拡大を見据えたブランドの確立などが今後の課題として浮上している。

今回は台湾食品産業の新しい取り組みや展望について紹介する。